

福島第一原子力発電所 サプレッションプール水サージタンク 建屋付近（東側）におけるポンプからの漏えいについて

< 参 考 資 料 >
2 0 1 9 年 2 月 2 2 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 本日（2月22日）午前10時21分頃、第二セシウム吸着装置で処理したストロンチウム処理水*を廃液供給タンクへ移送するサプレッションプール水受入水移送ポンプ（A）の試運転を行っていたところ、同ポンプのフランジ部から水が漏えいしていることを協力企業作業員が発見しました。

*直近2月14日の測定値

Cs134： 2.4×10^2 Bq/L

Cs137： 2.86×10^3 Bq/L

全ベータ： 4.96×10^4 Bq/L

- 漏えいした水はポンプと内堰を囲っているアクリル製の小屋の壁に飛散し、内堰とアクリル製の壁の間隙から、外堰内に漏えいしました。
- 直ちに試運転は中止し、漏えいは停止しましたが、その時の状況から漏えい量は数L程度と考えています。（外堰の水は、もともとあった雨水と合わせて約20m×1m×5mm（約100L相当））
- 外堰には排水弁が設置されており、開状態でしたが、外堰外の地面の水分をスミヤろ紙に浸み込ませ測定したところ、バックグラウンド相当であったことから、漏えいした水は外堰内に留まっていると判断しております。（排水弁出口は側溝・排水路に導かれておらず、周辺にも側溝・排水路はなし）
- 今後、漏えいの原因を調査し、必要な対策を講じてまいります。

漏えいしたフランジ部赤丸部



ポンプ小屋のイメージ

